

第3期上尾市地域創生長期ビジョン・総合戦略
人口の将来展望
基本的な視点や構成について

令和7年4月

【 目 次 】

1	国手引きの概要	1
	（１）人口動向分析・将来人口推計について	1
	（２）総合戦略について	1
2	第２期上尾市地域創生長期ビジョン・総合戦略の視点や構造の課題等	4
3	人口の将来展望	6
	（１）総人口の推計	6
	①第２期上尾市地域創生長期ビジョンにおける推計結果と実績値の比較	6
	②社人研準拠推計（ベース推計）	7
	③人口のシミュレーション	8

1 国手引きの概要

（１）人口動向分析・将来人口推計について

国は、地方版総合戦略の策定を促すため、「地方版総合戦略の策定等に向けた人口動向分析・将来人口推計の手引き（令和６年６月版）」を示している。

うち、人口動向分析・将来人口推計に関する概要は、以下のとおり。

○コーホート要因法による推計手法の解説

○人口動向分析の基礎データ例

- ・男女別人口
- ・社会増減数・自然増減数
- ・男女、年齢別人口・純移動数・純移動率
- ・男女、年齢、移動前の住所地別転入者数・男女、年齢、移動後の住所地別転出者数
- ・合計特殊出生率

○将来人口推計の基礎データ例

- ・将来の男女、年齢別推計人口
- ・将来の生残率・純移動率・子ども女性比・０－４歳性比
- ・封鎖人口を仮定した将来の男女、年齢別推計人口
- ・夜間人口・昼間人口・昼夜間人口比率
- ・常住地、従業地・通学地別通勤者・通学者数
- ・未婚者の希望子ども数・夫婦の出生子ども数・理想子ども数・予定子ども数

（２）総合戦略について

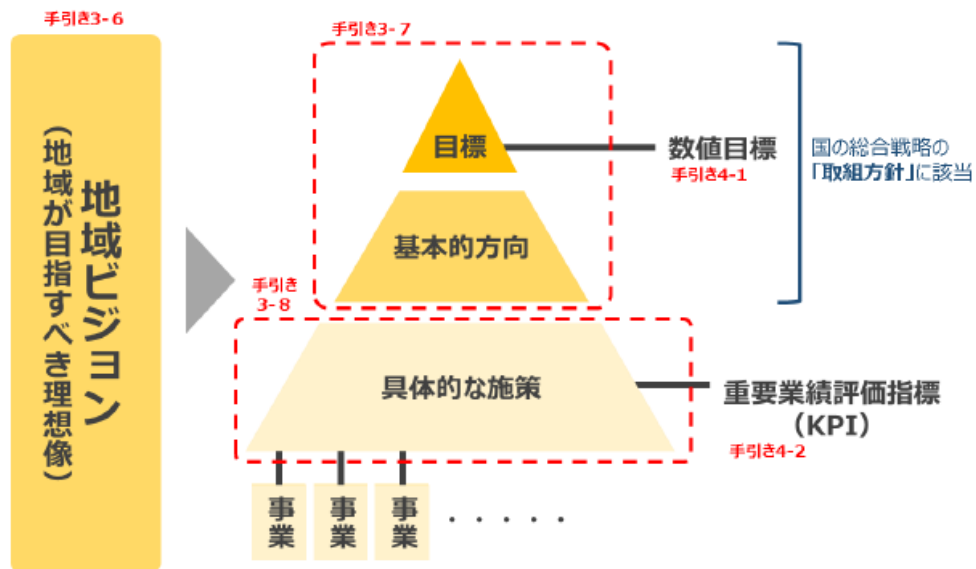
また、国は、「地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引き（令和５年１２月版）」を示している。うち、基本的な視点や構成に関する概要は、次ページから掲載するとおり。

○視点

- ・デジタル技術の浸透・進展など時宜を踏まえる
- ・地域の個性や魅力を生かした地域ビジョン（地域が目指すべき理想像）を掲げる

○構成

- ・名称：地域の実情に応じた名称を設定することが適切
（例）〇〇市デジタル田園都市構想総合戦略 など
- ・期間：国総合戦略の期間（令和5～令和9年度）を勘案
ただし、地域の実情に応じた期間を設定することも可能
- ・構成：次のイメージのとおり



出典：内閣官房「地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引き（令和5年12月版）」

○地域ビジョンの再構築

- ・地域ビジョン（地域が目指すべき理想像）を再構築した上で、地方版総合戦略を改訂
- ・国の総合戦略で例示されているモデル地域ビジョンも参考に設定
- ・各地域が掲げている構想など、地域の実情に応じた地域ビジョンも考えられる

○目標と基本的方向

- ・デジタルの力を活用しつつ、次を目指すものとする

- ①地方に仕事をつくる
- ②人の流れをつくる
- ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④魅力的な地域をつくる

- ・国の総合戦略における施策の方向は次のとおり

(1) デジタルの力を活用した地方の社会課題解決・魅力向上

- ①地方に仕事をつくる
- ②人の流れをつくる
- ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④魅力的な地域をつくる

(2) デジタル実装の基礎条件整備

- ①デジタル基盤整備
- ②デジタル人材の育成・確保
- ③誰一人取り残されないための取組

○具体的な施策

- ・それぞれの地域の実情に応じながら戦略期のうちに実施する施策を検討

○数値目標

- ・政策分野ごとに目標を設定
- ・アウトプットではなく、その結果としてもたらされたアウトカム

○施策における重要業績評価指標（KPI）

- ・客観的な重要業績評価指標（KPI）を設定
- ・施策ごとに設定、複数施策に一つのKPIを設定、施策・事業の異なる単位に設定可
- ・原則としてアウトカムに関する指標を設定することが望まれるが、設定できない場合にはアウトプットに関する指標を設定することも可能

○総合計画等との関係

- ・基本的には単独の地方版総合戦略として策定することが適切
- ・ただし、総合計画等が、地方創生という目的が明確であり、目標や重要業績評価指標（KPI）が設定されるなど、地方版総合戦略としての内容も備えている場合は、これらの計画等と地方版総合戦略を一つのものとして策定することは可能

2 第2期上尾市地域創生長期ビジョン・総合戦略の視点や構造の課題等

国手引きの内容を踏まえた現行の第2期上尾市地域創生長期ビジョン・総合戦略の視点や構造の課題等は以下のとおり。

(1) 長期ビジョンについて 現行計画 P.13

- ・ コーホート要因法を用いて将来人口を推計しており、推計手法に問題はない。
- ・ 人口動向分析・将来人口推計の基礎データについても概ねカバーされている。
- ・ 国手引きでは、「未婚者の希望子ども数・夫婦の出生子ども数・理想子ども数・予定子ども数」が基礎データの例として示されている一方、合計特殊出生率の人口置換水準（2.07）については明言がない。

(2) 総合戦略について

○視点

- ・ デジタル技術の浸透・進展などを踏まえ、何らかの形でデジタル活用について触れる必要がある。
- ・ 地域の個性や魅力を生かした地域ビジョン（地域が目指すべき理想像）を掲げる必要がある。

○目標と基本的方向 現行計画 P.21

- ・ 国手引きでは、①地方に仕事をつくる、②人の流れをつくる、③結婚・出産・子育ての希望をかなえる、④魅力的な地域をつくるの4本柱とされている。
- ・ 現行戦略では、1 活力にあふれたにぎわいあるまちづくり、2 明日を担う人が育つまちづくり、3 魅力があり安心して暮らすことができるまちづくり、の3本であるが、3 魅力があり～の内容には国手引きでいう②④が含まれている。

○数値目標、施策における重要業績評価指標（KPI） 現行計画 P.47～P.50

- ・ 現行戦略でも設定されており問題はないが、指標の再検討は必要。

※現行計画の数値目標

- ・ 市内法人の従業者数、年少人口、転入超過の数など

※現行計画の重要業績評価指標（KPI）

- ・ 中小企業サポート件数、保育園の待機児童者数、市の公式SNS登録者数など

○総合計画等との関係

- ・ 総合計画と総合戦略は別冊で策定している。
- ・ 一部総合計画と同じ数値目標を設定している。
- ・ 総合計画と地方版総合戦略を一つのものとして策定することは可能とされていることから、総合計画に位置付ける施策・事業、数値目標、重要業績評価指標（KPI）等との整合を図ることが重要である。

3 人口の将来展望

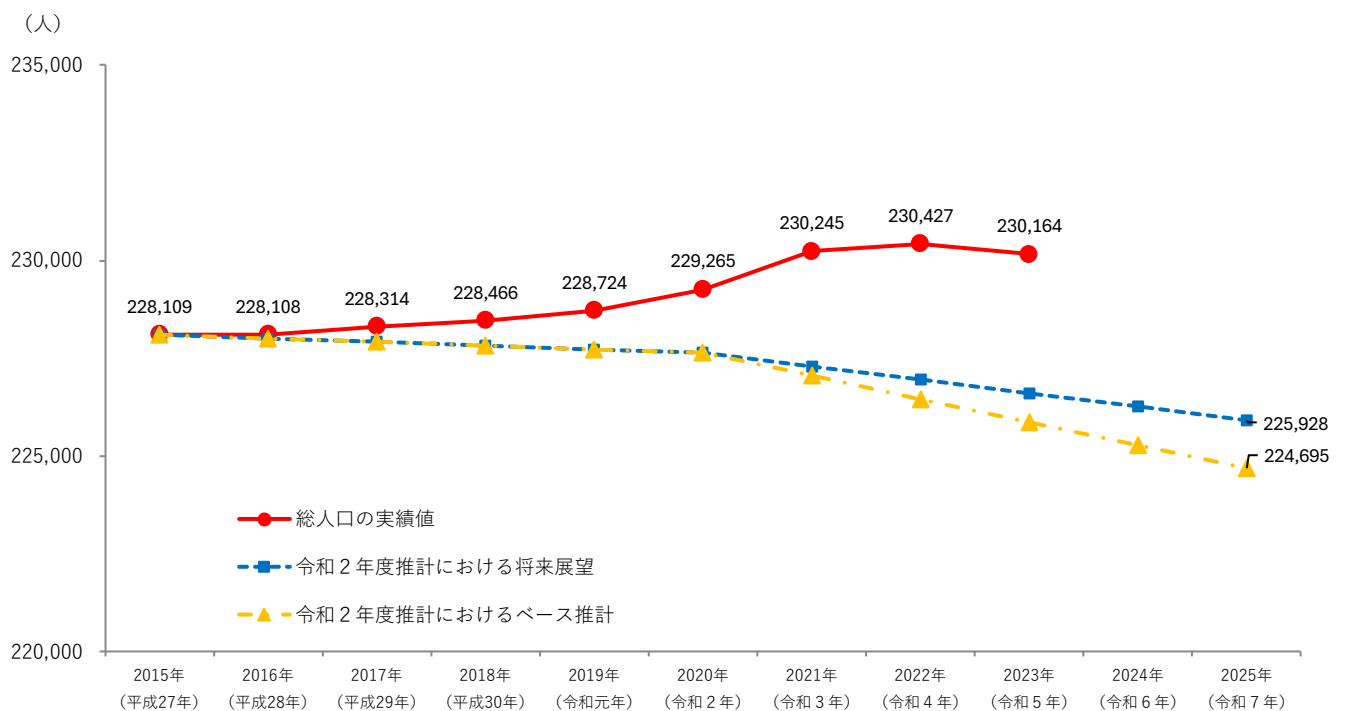
(1) 総人口の推計

①第2期上尾市地域創生長期ビジョンにおける推計結果と実績値の比較

2020 年度（令和2年度）に策定した「第2期上尾市地域創生長期ビジョン・第2期上尾市地域創生総合戦略」では、2020 年（令和2年）から 2065 年（令和47年）までの将来人口推計を示している。

この2020 年度（令和2年度）における推計（以下「令和2年度推計」）では、上尾市の総人口は緩やかに減少し、2025 年（令和7年）には 225,928 人となるものとしている。

しかしながら、上尾市総人口の実績値をみると、2023 年（令和5年）には微減となったものの、2022 年（令和4年）には 230,427 人となっており、社会増を背景に令和2年度推計を上回って推移していることがわかる。



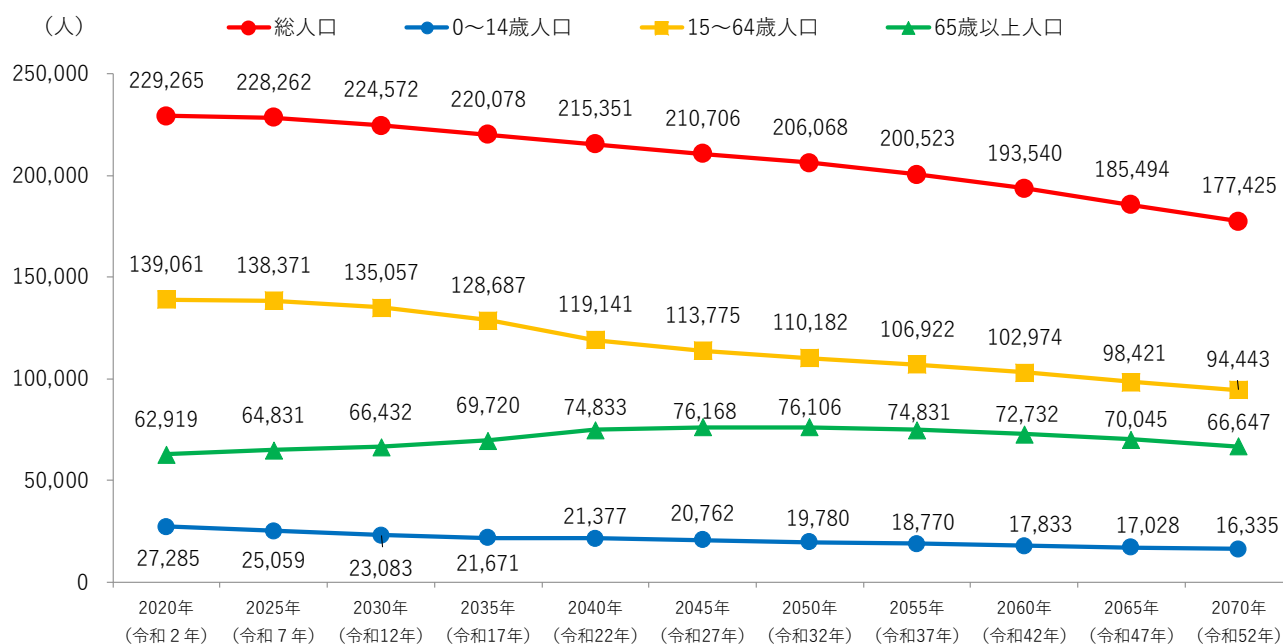
②社人研準拠推計（ベース推計）

上尾市の総人口を推計するにあたり、基本となる推計として、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」）が公表している「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」（以下「社人研推計」）に準拠した推計を行った。

具体的には、推計期間の延長（社人研推計は2050年までであるが、本推計では2070年までとした）、基準人口の置き換え（2020年国勢調査人口から、2020年10月1日時点での上尾市住民基本台帳人口に置き換え）をおこなっている。

なお、推計に係る手法（コーホート要因法）や、仮定値（生残率・合計特殊出生率※1・純移動率・0～4歳性比）は、社人研が上尾市における値として示した数値※2をそのまま使用している。

推計の結果、上尾市の総人口は、2020年（令和2年）をピークとして既に減少局面にあり、2035年（令和17年）には220,078人となり、2070年（令和52年）には177,425人となる。



※1 社人研推計では、合計特殊出生率に替わり「子ども女性比」という仮定値が用いられている。本推計では、国が示した換算係数を使用して合計特殊出生率を「子ども女性比」に換算して使用している。

※2 社人研推計では、上尾市における固有の値として国勢調査等から算出した数値を採用している。

③人口のシミュレーション

「第2期上尾市地域創生長期ビジョン」（以下「現行ビジョン」）では、社人研準拠推計をベース推計として、推計に用いる仮定値のうち「純移動率」は社人研仮定値をそのまま採用するものとし、「合計特殊出生率」のみを変化させるシミュレーションを実施している。

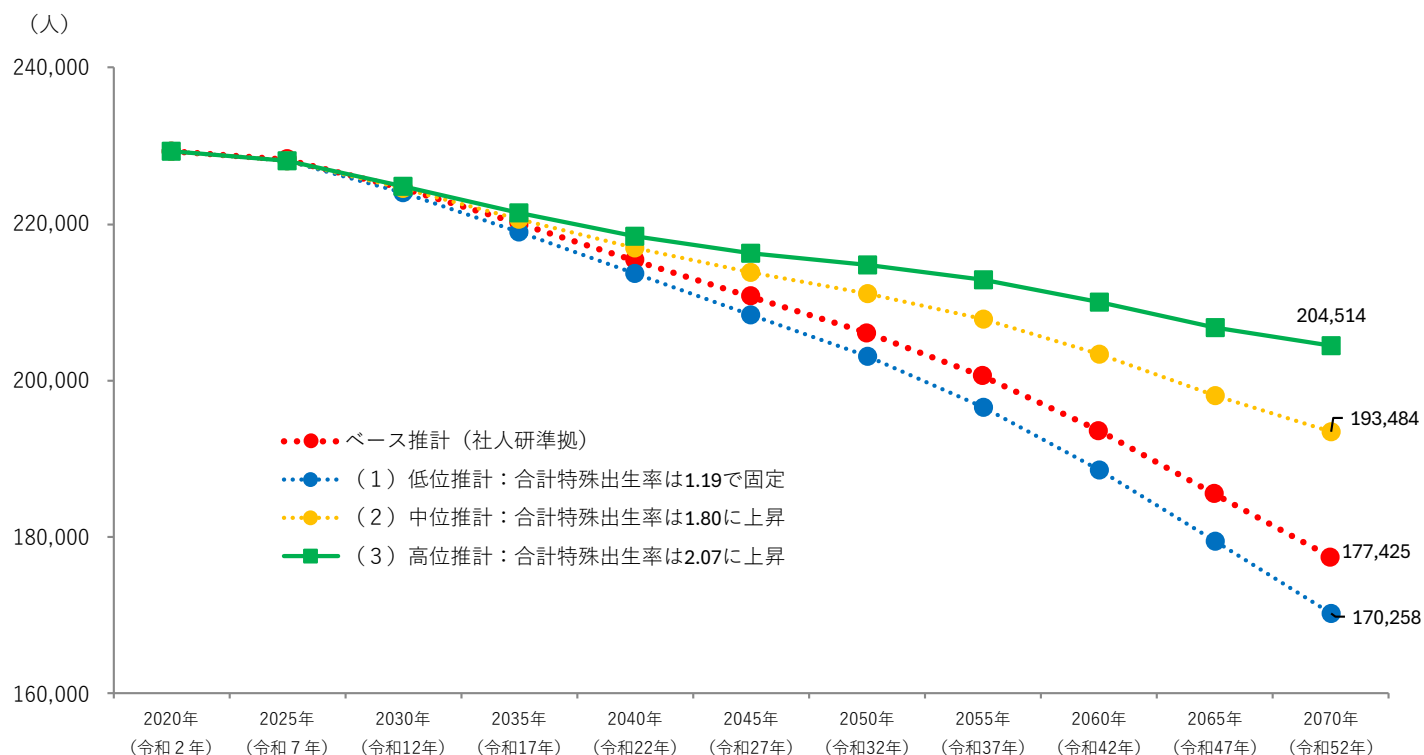
そのためここでは、「現行ビジョン」と同様に、「純移動率」は社人研仮定値をそのまま採用し、「合計特殊出生率」のみを変化させる（出生低位・中位・高位）シミュレーションを実施した。

なお、シミュレーションの際、「合計特殊出生率」及び「純移動率」以外の仮定値（生残率・0～4歳性比）は、社人研が上尾市における固有の値として国勢調査等から算出した数値を採用している。

	《出生低位》 合計特殊出生率は 上尾市における最新 の実績値（1.19、令 和2年）のまま変動 しない。	《出生中位》 合計特殊出生率は 2050年に国が示す 国民の希望出生率 1.80に上昇し、そ の後は変動しない。	《出生高位》 合計特殊出生率は 2050年に人口置換 水準（※）である 2.07に上昇し、そ の後は変動しない。
純移動率は社人研仮 定値（転入超過を維 持）のまま	シミュレーション （1） 【低位推計】	シミュレーション （2） 【中位推計】	シミュレーション （3） 【高位推計】

※人口が長期的に増減せず一定となる、合計特殊出生率の水準

シミュレーション結果



ポイント：

- ◎シミュレーション（１）は、合計特殊出生率が直近の実績値 1.19 から上昇しないという想定であるため、合計特殊出生率が 1.30 程度に上昇するとしているベース推計（社人研準拠推計）を下回る結果となっている。
- ◎シミュレーション（２）は、合計特殊出生率が国が示す国民の希望出生率 1.80 まで上昇するという想定であるため、シミュレーション（１）及びベース推計を上回る結果となっている。
- ◎シミュレーション（３）は、合計特殊出生率が人口置換水準である 2.07 まで上昇するという想定であるため、シミュレーション（１）（２）及びベース推計を上回って最大となる結果となっている。
- ◎以上から、2070 年における上尾市人口を 20 万人前後に維持するためには、シミュレーション（２）または（３）の実現が必要となる。
なお、このシミュレーション（３）における「出生高位」の考え方は、現行ビジョンと同様の考え方である。